

●春風に乗って桃の香漂う公園散歩

○古河桃まつり 春を彩る古河公方公園の花桃の楽しみ方

春の訪れとともに、公園の桃林は美しく彩られます。園内には約 1,800 本の花桃が植えられており、3月中旬から下旬にかけて見頃を迎えます。花は品種によって色や形が異なり、代表的な「①矢口」は濃いピンクの可憐な花、他に「②源平」「③寿星桃」「④寒白」「⑤菊桃」「⑥照手」など、全部で6種類の花が楽しめます。また、この時期「古河桃まつり（3/15～3/30）」が開催され、期間中は、地元の特産品やグルメの販売などの露店が並び、公園全体が春の賑わいに包まれます。また、期間中の土日は、夜のライトアップが施され、昼間とは異なる幻想的な雰囲気の花桃を鑑賞することができます。なお、今年は22日の夜に手筒花火やスカイランタンのイベントが予定されており、さらに盛り上がる事が予想されます。花見のスポットとして人気の高い古河公方公園、春風に揺れる花桃の下で心癒されるひとときを過ごしてみたいはいかがでしょうか。



○公園名所案内 「土井利勝」 古河の桃林のきっかけの話

土井利勝は、三河の国（愛知県）に生まれ、戦国時代から徳川家康、家忠、家光と江戸時代まで三代の将軍に仕えた江戸幕府の重鎮です。桃の話は、兵学者大道寺友山が著した「落穂集」にあります。将軍家光から質問された利勝は、「古河の城地を私が拝領致した当時田舎、城下ともに大変薪が少なく領民が苦労していると聞きました。それで御当地（江戸）の町役人へ申し付け、子供の内職として桃の木の実を拾わせましたところ、一夏の間に大分拾い集め持寄りしましたので、俵に詰め古河へ送りました。そこで田畑の廻りは当然ながら農民達の屋敷廻りにまで植えさせたところ、二～三年で成木になり、今では大変役に立つようになったと聞いておりますが、私はまだ見ておりません」とすると家光は「それでは、休みをとって領内の様子を見て置かなければいけない」と言いました。その後、利勝は領内を見て回ったそうです。そんな逸話から公園の桃林は始まりました。利勝の遺徳をしのんで見る花桃も味わい深いものがあります。



※出典抜粋：落穂集現代文訳 大船住人 <http://www.hh.em-net.ne.jp/>

○3月の花のご紹介 ⑧スイセン ⑨ボケ ⑩コブシ

⑥ヒガンバナ科のスイセンは、春に黄色や白の花を咲かせる多年草です。

⑦ボケはバラ科の落葉低木です。春先に赤やピンク、白の花を咲かせ、庭木や生垣としてよく使われます。

⑧早春に白や紫の花を咲かせる落葉高木。モクレンに似た花をつけ春の訪れを告げる木として知られています。



3月の鳥【 ウグイス 】

スズメ目ウグイス科に属し、体長は15cm ほどでスズメくらい大きさの野鳥です。春の訪れを告げる鳥として親しまれており、まだつんとする寒さが残る中、「ホ～～ホケキョ」と透き通るような鳴き声が響き渡り、訪れた人々に春の訪れを感じさせてくれます。公方公園での今年のウグイスの初音は2月15日でした。ウグイスの鳴き声は春先から盛夏にかけて聞くことができますが、特に春先の鳴き声は、繁殖期に向けたオスのさえずりであり、力強く美しいものです。鳥たちは気温にも影響を受けますが、それ以上に日照時間の変化が重要な役割を果たします。日の長さが変化することで、渡りや繁殖の準備が促されるシグナルとなるのです。



★古河公方公園公式アカウントを開設しました！

是非みなさまフォローをよろしくお願いいたします。

- Instagram @koga_kubou
- X (旧 Twitter) @kubou_park

Instagramアカウント



X (旧Twitter) アカウント

